

殺人事件と差別

最近、毎日のようにショッキングな殺人事件が報じられています。先日は選挙中の長崎市長が銃殺されるという事件と、アメリカの大学生が構内で銃を乱射するという事件がほぼ同時に発生しました。

これらの事件の背景に共通する点は、加害者が被害者に対して、偏見や固定観念を持っていたということです。

このような事件を観ていると、ある社会心理学者の言葉が思い出されます。その言葉とは次のようなものです。

『…○○の人は△△だ、と不当に決め付けている人がいるとする。この人が、○○の人の悪い所ばかりを見つげるようになると、ますます意固地になって決め付け

て、当然のことにしてしまう。

この人の行為は、はじめ○○の人の「悪口を言う」くらいだが、決め付けの度合いが強まると、やがては○○の人を「避ける」ようになり、次は「差別する」ようになる。さらに決め付けの度合いがエスカレートしてくると「暴力をふるう」に至り、最終的には「消し去る」行為へと発展する…』

特にこの言葉の中で注目したいのが後半の部分で、偏見や固定観念の度合いが強まることによつて、「悪口を言う」「避ける」「差別する」「暴力をふるう」「消し去る」と発展してくると指摘している点です。

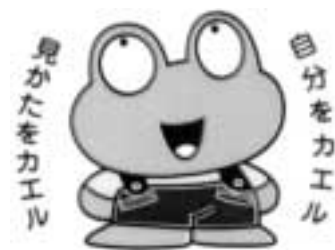
この点からみると、人権教育で偏見や固定観念をなくそうと取り組まれていることは「差別する」

ことの撤廃はもちろんのこと、さらに発展した段階の「暴力をふるう」行為や「消し去る」行為を阻む取り組みでもあるといえます。

近年、犯罪の低年齢化や凶悪犯罪の増加などが話題になっています。

日本国内の殺人事件の年間発生・認知件数は、ここ20年程度横ばい状態で、毎年1200～1300件といわれています。

殺人事件と差別は直接的に結びつくわけではありませんが、その根底にある問題が共通しているということをしっかりと認識しなければならぬのは事実のようです。



自分をかエル

見かたをかエル

「人権が大黒柱のまちづくり」をより一層推進するため、町民生活課人権施策室が、「平成18年度南部町人権啓発冊子」を作成しました。

この冊子は、5月17日の区長文書で全町に配布されます。

人権意識の向上に役立てていただきますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

町民生活課人権施策室

TEL 64・3781



人権啓発冊子